

祐善寺だより

第49号

発行日

2022年10月7日

真宗大谷派 祐善寺 住職/岡崎 賢 福井県丹生郡越前町上糸生20-2 TEL 0778-34-5170 FAX 0778-34-5170

カルト宗教にはご用心を!!

住職 岡崎 賢

奈良で選挙応援演説中の安倍元首相が背後から銃撃されて死亡した事件は、当時、国民に大きな衝撃を与えました。自民党支持者だけでなく、革新系の人たちからも、「安倍さんが殺された」と動揺が広がりました。

ところが、銃撃事件の容疑者の犯行動機が、「旧統一教会」関連であることが判明すると、国民の意識は大きく反転していきました。

容疑者の母親が統一教会に入信して桁外れな多額の献金を繰り返し、挙句の果てには自己破産して、家族の生活がぐちゃぐちゃに崩壊していったという経緯は、ここで改めて記述することでもないでしょう。

容疑者の統一教会に対する恨みは尋常ではなく、そこに安倍元首相が関係していたことを知った時から容疑者の標的は安倍元首相に向かっていたというのです。また、その統一教会をわが国に根付かせたのが、安倍元首相の祖父である岸信介氏であることを考慮すると、安倍元首相は、皮肉にもその因縁深い「統一教会」の犠牲者という

ことになってしまつたのです。

「統一教会」に象徴されるカルト宗教は、世間に大小合わせてわんさかと存在しています。勿論、県内にもご存知のように、幾つものいかがわしいカルト宗教があります。カルト宗教が宗教法人を隠れ蓑として、霊感商法まがいの悪徳商法、高額な献金の強要等々が行われ、自己破産して家族もバラバラになっていった事例を、私は何件も知っています。宗教団体の名前を出さないで、毎日のように新聞で「歎異抄」の広告をだしているところもあります。

どうか皆様、安易な判断で集会に参加したり、勧誘に乗ったり物品を購入してカルト宗教の餌食にならないように今一度、用心して下さい。

ご不明なことや宗教に関する図書を購入する場合にも、住職にご相談して下さい。安倍元首相の悲劇は、勿論安倍元首相の悲劇であると同時に容疑者家族の悲劇でもあるのです。なぜなら、容疑者家族は「統一教会」というカルト宗教によって家族が極貧な生活に陥落し、自殺者も出し崩壊していった悲劇の当事者でもあるからです。

ご案内

報恩講

十一月二日(水)

午後二時

法話・南居

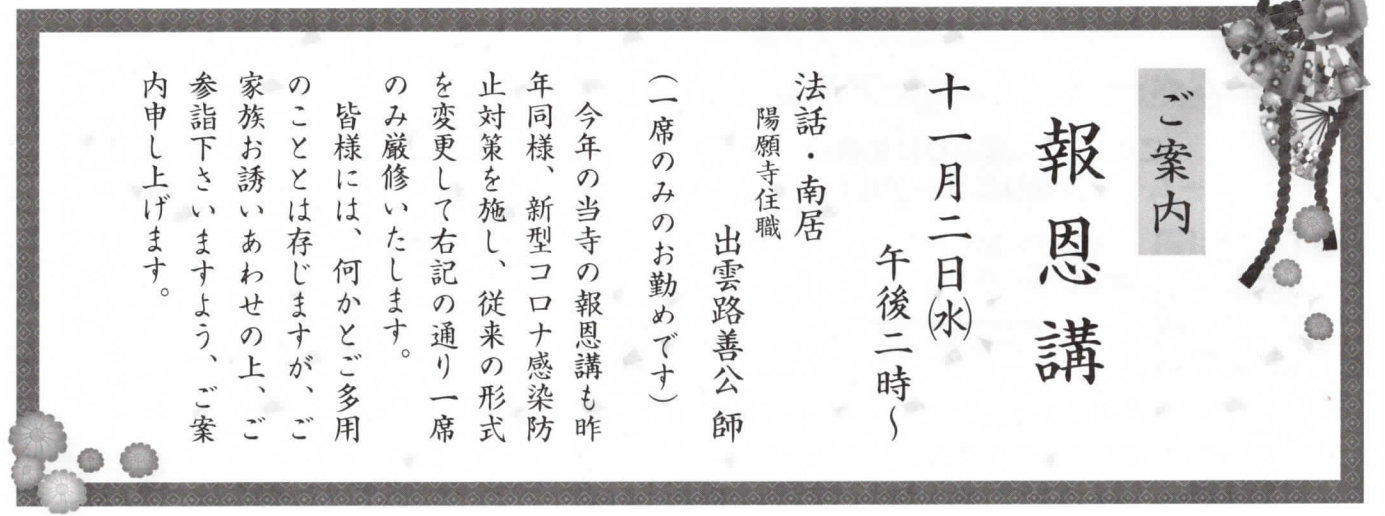
陽願寺住職

出雲路善公師

(一席のみのお勤めです)

今年の当寺の報恩講も昨年同様、新型コロナウイルス感染症防止対策を施し、従来の形式を変更して右記の通り一席のみ厳修いたします。

皆様には、何かとご多用のこととは存じますが、ご家族お誘いあわせの上、ご参詣下さいますよう、ご案内申し上げます。



投稿ページ

妻への手紙

福井市 島

洋

平穏な老後生活を送っていた家内に、突然病魔が襲い掛かりました。平成29年1月3日早朝、妻のうめき声で目覚めた私は、妻のただならぬ状況を見て救急車を呼び、済生会病院に緊急入院をしました。病状は、脳梗塞による右半身不随と言葉を発することができない言語障害でした。入院三ヶ月制限で三つの病院を転院しました。私に出来ることはと自問し、毎日見舞うことにしました。6月には退院をして自宅に戻りましたが、回復したわけではなく自宅での介護をはじめ訪問看護、施設のデイサービス・ショートステイなどを続けました。

平成30年3月、ようやく新田塚ハイツに入所することができました。ハイツにも毎日面会に行っていました。令和2年2月25日ハイツがコロナ感染予防のため「面会禁止」となりました。家内は言語障害のため携帯電話も使えず、二人の会話は不可能になったのです。しかし、家内は字が読めるのだから手紙を書いて

みようと思いつきました。ただし、右手は使えないので開封は無理！そこで便箋は一枚、身近な楽しい話題で封はしないこととして自分で施設に届けることにしました。

手紙は月水金の週3回としました。手紙を届けたものの、本当に読めているのか、理解出来ているのか心配でしたが、施設の人にお聞きしたら何回も読み返しており、時々手紙を見て笑っているとのことでした。

令和2年2月25日に面会禁止になってから週3回手紙を書き続けましたが、令和4年6月16日総合病院で帰らぬ人となりました。遺品は山ほどの手紙でした。引き続き読んで欲しいと思い、そのまま納棺させていただきます。



◆大物川柳

小倉 野村 明 良

追い越され 先行く車の 無事祈る

(そんなに急いで事故を起こさないように)

頬ぶたれ 気がすむ迄と 右を出す

(自分が悪かった、気の治まる迄)

違反して 罰金払って 感謝する

(大惨事の前の戒めか)

糸生小学校二年生が 当寺を訪問

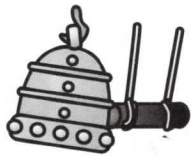
去る7月5日、糸生小学校2年生児童8名が、学校の「町たんけん」の一環で担任の先生に引率されて当寺を訪問。

可愛い児童たちは、お寺の本堂に入って探検？して珍しい仏具等を見つめるや、何やかやと質問がありました。児童が返答に困る難問？もありました。児童たちは、各々スケッチ板を携えていて、思い思いに見つけた探検物(?)を、上手にスケッチして



▲鐘楼堂へ上がり、みんな可愛いお鐘撞きを体験しました

▲児童たちに喜んで頂いて嬉しいです！！



いました。外では鐘楼堂へのぼり、代わるがわるお鐘を撞いたりしました。鐘撞きは初めての児童も多く、本当の意味での「探検」になったのかも知れません。

帰りに鐘楼堂の前で記念撮影。数日後、児童たちからのお礼の色紙(左の写真)を担任の野口先生が届けて下さいました。良い思い出となる時間を過ぎて頂いたようで、受け入れ側としても嬉しく思っています。

児童たち、みんな、元気に仲良くして、勉強も頑張ってくださいね。

ホームページをリニューアルしました!

このたび10年ぶりに祐善寺のホームページをリニューアルしました。



QRコードを読み取るか、検索窓に下図の検索ワードを入れて入室してください。

祐善寺 孤独死ゼロ

検索

ホームページへのご意見、ご感想等をお寄せ頂けますと嬉しいです！よろしく願いいたします！

投稿ページ

花だより

『貴方はホントは仏様?』



フラシノキ

この写真は、フラシの木の花です。貴方ネ、フラシつてご存知でしょ?例えば、赤ちゃんにお乳を飲ませる哺乳瓶を洗うのに使ったあのフラシのことなの。私は何故か、小学生の時先生に言われて試験管を洗うのに使ったあのフラシのこともシツカリと覚えていた。もつとあのフラシは、この花よりはズウツト細かつたけれどネ。私はあの時、世の中には便利なモンがあるんや

なあ…って心底感心したのを覚えています。

話題を写真に戻しますね。この植物は自分で買ったのではなくて数年前、近くにお住まいの祐善寺の同行仲間の人が「この花も、可愛いんだよ…」ってご自宅の庭で大事に育てられた株を掘り起こして、わざわざ持って来て下さったものなの。私にはそのお心が、ホントに嬉しかった…。そのお心にお応えすべく、我が家で一番目立つ所へと思い、玄関先へ…。でもコンクリートで固められているので仕方なく、その店で売っている中で一番大きな植木鉢を買い求めて…。それがね、今年もこんなに立派に花を咲かせてくれたんですよ。嬉しいですね。写真では四つしか見えないけれど、ホントウはもつと沢山咲いているの。ホントウ幸せです。有り難いです。お陰様で私、このところ毎日、幸せな気持ちで堪能させて頂いているの。有り難いことです。ヒョツとしたらこのフラシの木は、仏様かもね。その内自分もこの木のように、人様のお心をホントウカクッと温められるような人になつて願っていますのであります。

〈野村 軍一〉

豪雨災害について思うこと

鯖江市 松島 守

いつの頃からだろつか?今でこそ聞き慣れた線状降水帯という言葉。

毎年のように全国各地で引き起こされる堤防決壊等による床下、床上の水害に翻弄されます。天気予報も予測がたてにくく、ルート及び降水量、時間も正確に把握できない。ましてや対策も回避もできない。

ただただ今まで経験した事のない降水量だあって、避難を促すのが関の山。これだけ文明の利器の進んだこの世でも、自然災害を前にした人間は、ただの傍観者でしかない。

同じような災害を何度も何度も体験しても、自然のなすがまま。結果は神のみぞ知る。

先人達が長年守り続けてきた故郷を現代人は維持することが出来なくなり、過疎化が進む一方であり、自然の人間に対する挑戦である。私達の出来る事、それは地球温暖化の回避、プラごみの削減や森林伐採の抑制、二酸化炭素等排出の軽減等、人類が長い年月を掛けて破壊してきた自然環境を少しでも元の状態に近づけていく事が最大の改善策ではないのだろうか。

目に見えた効果は期待出来ないかもしれないけれど、孫子、未来永劫継続していくためには、今の時代を生きている人が、努力、工夫していく責任があります。何十億年も存在してきた地球を、一瞬しか生存していかないものが破壊する権利はないのです。ましてや、核兵器による自然環境の崩壊を作り出すなんて、人間のおごりとしか言い様がない愚かな事です。

令和4年度護持費の志納よろしくお祈いします

祐善寺を永代に互って護持していただくために、護持費をお願いしておりますが、今年も次のおりご志納下さいますようよろしくお祈いします。

◇護持費の使途

- ・ 報恩講の厳修費や教化事業の実施
- ・ 本堂を守る火災保険や環境維持費用
- ・ 本山相続講、福井教区賦課金等
- ・ その他

◇年額

一戸 一〇、〇〇〇円(以上)

◇志納方法

- ・ 寺へ直接志納する
- ・ 秋まわりや法事で住職が貴家を訪問の際に志納する
- ・ 地区の役員さんに志納する
- ・ 郵便振替口座

(〇〇七七〇一九一三〇七二一)

・ 加入者〓祐善寺)

へ振り込む

◇志納期限

毎年十一月末日

酷暑の中で草刈作業奉仕

桑原文子

7月18日は草刈り作業奉仕の日だった。今年も参加することができた。健康である事がありがたい。

男性たちは草刈り機でブルンブルンと威勢がいい。オバサンたちは鎌でモクモクと草をとる。太陽は照り輝く。汗はひたひた落ちる。

途中でひと休み。苺アイスのおいしかったこと。「ああ、おじい」とニコリ顔になる。

祐善寺の空気は澄み、緑の風がときおり吹く。

サザエを毎年届けて下さるうさん。ありがたくみんなで頂きました。マスクをした顔、顔、顔。目は笑っている。お会いできて嬉しい。いい作業奉仕の日。またお会いできますように。



ホントに酷暑の中での草刈り作業は有り難い

暮らしている中の仏教語

「出世」

世の中に出て社会的に高い地位や身分にある人に対して、良く、あの人は出世したな、という言葉を使いますね。

しかし、この「出世」という言葉は、本来、大事な仏教語なのです。

まず、出世の「出」は、文字通り出ること。出世の「世」は、世のこと。そして、仏教では、出世に二つの意味があります。

ひとつは、「世に出る」こと。もう一つは、「世を出る」こと。まず、「世に出る」とは、悩み多い私たちをお救い下さるために仏さまがこの世に出現されること。つまり、お釈迦様が、私たちに「南無阿彌陀仏」をお説き下さるためにこの世にお出ましになられた、という意味があります。

次に「世を出る」とは、世間の煩わしい価値観や狭さを超えて、広々とした豊かな世界に出るといこと。仏さまのご出世の尊さ、ご説法に出会って初めて、私たちはわが身の愚かな姿に気づかされ、自分に謙虚に生きていく心がけがよくなる。

おくやみ

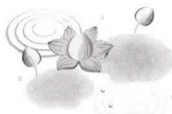
上野すみ子様（越前町新庄）には、令和四年六月二十八日、行年九十五歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。



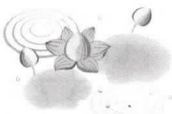
島助右衛門様（福井市新田塚）には、令和四年七月三日、行年百歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。



坂下久子様（越前町天谷）には、令和四年七月十四日、行年九十六歳にて往生の素懐を遂げられました。

ご生前中のご功勞に、心より深謝申し上げます。



年忌法要をお勤め下さい

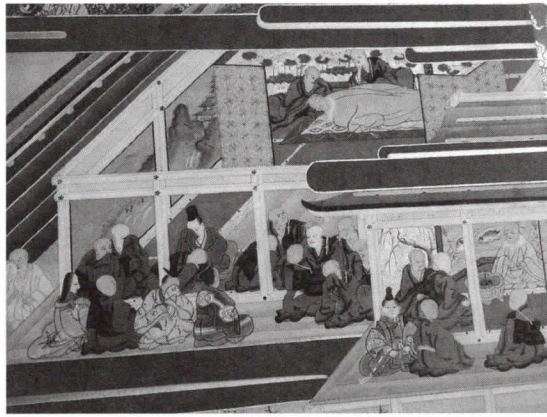
あなたのいのちはあなただけのものではない。ご先祖様代々からの贈り物！

あなたがいのちを頂いたご先祖様の年忌法要を是非、お勤めしてください！

それは、人としての努めです。

記

- 五十回忌 昭和四十八年没
- 三十三回忌 平成二年没
- 二十五回忌 平成十年没
- 十七回忌 平成十八年没
- 十三回忌 平成二十二年没
- 七回忌 平成二十八年没
- 三回忌 令和二年没
- 一周忌 令和三年没



第十八回

親鸞聖人御絵伝

らくようせんげ
洛陽遷化



親鸞聖人は、弘長二（一二六三）年十一月二十日頃から、体調を崩されていきました。病床にあつて親鸞聖人は、仏法に出会ったことのご恩を述べ、ひたすらお念仏を称えられていたのです。親鸞聖人が病床にあることを聞きつけて、多くの門弟が親鸞聖人の元へ集まってきました。聖人は、それらの人々に向かつて、最後の説法をしているのが右の図です。

同月二十八日、親鸞聖人は門弟たちに見守られ、善法院で九十年のご生涯を静かに閉じられました。みな悲しみにくれ涙しています。

親鸞聖人の亡骸は、門弟たちに担がれ、鳥辺野の茶毘所へと向かわれ、延仁寺で火葬されたのです。

左の図は門弟たちの中央に、聖人の棺が見えます。

「親鸞聖人御絵伝」

浄土真宗の宗祖、親鸞聖人のご生涯を広く讃えんがために、親鸞の曾孫に当たる本願寺第三世覚如上人が親鸞聖人の求道の歩みを詞を著し、初稿本の絵は、親鸞聖人の直弟子西仏房の孫、淨法眼に描かれています。

詞の部分「御伝鈔」、絵の部分「御絵伝」と呼び、各寺院の報恩講において御絵伝四幅を余間に奉掛し、厳肅に御伝鈔が拝読されます。

（参考文献『親鸞聖人伝繪』『親鸞聖人 御絵伝』）

其の45

仏事
一口メモ

法事の包みもの

新しく家庭をもたれ、初めて親戚の法事に招かれたあなた。当日の持参品や服装などがわからず、戸惑われたことはありませんか？ テレビなどで紹介されている一般的な心得では浄土真宗の教えに合わない場合が少なくありません。

そこで、法事（正式には年忌法要といいますが）の場合を例にあげ、心得や作法についてわかりやすく紹介していきます。

まず包みものですが、市販されたものの中には「御仏前」あるいは「御霊前」と書かれた金封があり、どちらにしようか考え込んでしまったという経験は、これまでなかったでしょうか？

ここで押さえておかなければならないのは、「御霊前」は使用しないということ。法事とは、亡き人を偲びつつ、仏の教えに出あう場であり、浄土真宗では神や霊を必要としない生き方を説く教えです。ですから、「御霊前」という表書きは使

わらないのです。

次に、「御仏前」

は一般的によく使用されま

すが、む

しろ「御香資」や「御香典」とするのがふさわしい書き方です。

といいますのも、浄土真宗において最も大切なお経である「仏説無量寿経」には「香氣普く薫ず」とか「華を散じ香を焼きて、これをもつて回向して」とあり、私たちが薫香（かおり）をもって仏前に奉ずることが述べられています。薫香は、清浄なる気持ちを起こさせるためのものでもありましよう。その薫香の「お香」の代物として現金をお供えるのですから、「御香資」や「御香典」と書きするのが本来の意味からいってふさわしいわけです。

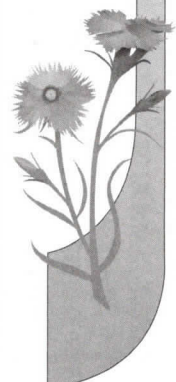
当日の服装については、例えば通夜から四十九日まででは喪服が望ましいでしょうが、法事の場合は地味な平服で清楚な服装であればよいでしょう。

法事に参列する場合、念珠（数珠）をつい忘れがちですが、持参することは大切なことです。

「仏事ひとくちメモ」（東本願寺真宗会館）所収



お知らせ



報恩講を前に

「全門徒三齋作業奉仕デイ」を実施します！

ご門徒の皆さんの

ご理解とご協力をお願いします！！

日 時 十月二十二日(日)

午前九時集合

(十一時半頃終了予定)

作業内容

本堂・庫裡IIガラス拭き、拭き掃除等

(主に婦人部の(ご)門徒)

境内・石段II環境整備等

仏具磨きII本堂内の全ての仏具磨き

持ち物

女性IIガラス拭き布、雑巾(古手拭)等

男性II軍手、スコップ、古タオル等

申込み

大変、お手数ではございますが、ご協力頂けます方は十月二十日(木)までに、祐善寺まで、お電話等頂けますと有り難いです。

寺族、門信徒さんの共有財産である祐善寺を、みんなの力で護ろう！ご協力よろしくお願いたします！！

ボランティア募集!!

雪囲い作業奉仕

日 時 十一月六日(日)

八時集合(午前中)

持 物 鎌(カッター)、軍手、合羽(悪天時)等

J A イベント保険

加入します。

作業内容

本堂、庫裡等の雪囲い作業をお願いします。高所での作業が苦手な方は、下で雪囲いシートのヒモ結びや資材運び等の作業もありますので、ご都合のつく方は、是非ご協力をお願いします。

お願い

甚だお手数ながら、ご協力いただけます方は、保険に加入上、十一月三日(木)までに、地区担当役員、もしくは祐善寺へご連絡下さいませよう、お願いいたします。



「年越し元旦参り」ご案内

今年も新型コロナウイルスに振り回され、酷暑、酷暑であえぎ、各地に豪雨災害をもたらした受難の年でした。

大晦日にお寺で除夜の鐘をつきつつ災いの多かったこの一年を振りきり、年明けとともに、すがすがしい気持ちでご本尊に、ご挨拶しましょう！

☆仏事で使用した不用品等を、ご持参下さい！

☆午後十一時過ぎから点火される「かがり火」で焼却しましょう！

★持ち込まれるもの

葬儀等で使用した白木の位牌、古ろうそく、お経本、お祓いを受けたお札、一年のカレンダー等々

左記の日程で、年越し元旦参りをお勤めします。ご家族お誘いあわせの上、ご参加下さい。

日 程

◆12月31日

- 23:15 集合・かがり火準備
- 23:20 読経・かがり火点火
- 23:30 除夜の鐘撞き始め

◆新年元旦

- 00:00 正信偈お勤め
- 00:20 お勤め終了
「一年の計」表明
- 00:30 解散

編集後記

■秋の農作業も終わり、やれやれ。(皆様、お疲れ様)

朝夕、めっきり冷え込み涼しくなった今日この頃です。今年も、コロナ感染に始まり、日本中大騒ぎ。(岸田さん、頼みませ)

また、プーターローの欲張り戦争勃発。県内では、南越前町・勝山一帯の8月の記録的な大雨。世界中、暗い話の上平期でした。

★しかし、明るいニュースも。勝山市出身のバトミントンの山口茜さん25歳が凄い。世界選手権を2連覇。ジャパNOPはわずか38分で優勝。(3度目の優勝)今後、茜さんには、2024パリ五輪まで頑張ってもらい金メダルを期待したいところです。

■島洋様の「妻への手紙」は、50数年前に大ヒットした『愛と死をみつめて』の映画が蘇りました。誌面上、あらすじは書けませんが、難病に冒され余命いくばくもないと宣告されたミコを同じ病棟で知り合ったマコが文通で励ます純愛物語。二人は離ればなれになっても、文通は途切れることなく、ミコの闘病生活の支えになっていく……。

★超高齢社会にあつて、ごこの家庭においても老老介護が現実化していく中で島様のこの『手紙』は、温かさや優しさで満ち溢れている、読み手に感動を与えてくれます。

★報恩講、皆様、お誘い併せてご参詣下さい。(住職)